



岡山大学

OKAYAMA UNIVERSITY

GLOBAL GATE FOR LEARNING

ディベートで学ぶ税金入門 (総論)

法学部 准教授 小塚真啓

もくじ

- なぜ税金を学ぶのか 【3～10枚目】
- 日本の税金の全体像 【11～17枚目】
- 税金の支払い（など）の流れ 【18～20枚目】
- おまけ 【21枚目】

高校教育と税法（税金）

「公共」の目標

自立した主体としてよりよい社会の形成に参画することに向けて、現実社会の諸課題に関わる具体的な主題を設定し、幸福、正義、公正などに着目して、他者と協働して主題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

習得すべき知識・技能

職業選択、雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、①公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、②市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及び③より活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。

高校教育と税法（税金）

「政治・経済」の目標

個人の尊厳と基本的人権の尊重、対立、協調、効率、公正などに着目して、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

習得すべき知識・技能

経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めること。

習得すべき思考力・判断力・表現力

市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

高校生向けの租税教育



とある租税教育用教材の目次

パワーポイント教材を 活用されるに当たってのお願い

この副教材は、生徒に「税の本質」を学ばせることを念頭において作成しています。

基本的には、パワーポイント教材の差し替えは、授業をされる方の自由としていますが、「税の本質」を考えさせる、授業構成案の2～9については、授業に取り入れていただきますようお願いいたします。

なお、学習を進めるに当たっては、生徒に自由に意見を発表させ、主体的に考えさせることに重点を置いたものになるよう配慮いたします。

「税の本質」

- 税は公共サービスの対価
- 自らの代表が、国の支出の在り方を決めることと、自らが国を支える税金を負担しなければならないことは表裏一体
- 税の使い道を監視する（関心を持つ）

授業構成案

1. 暮らしの中の税①
1. 暮らしの中の税②
1. 暮らしの中の税③
1. 暮らしの中の税④
2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？①-1
2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？①-2
2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？②
2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？③
3. 今までの議論をまとめてみよう
4. 国の財政①
4. 国の財政②
4. 国の財政③
5. これからの社会と税①
5. これからの社会と税②
6. 発展-今までの議論から一歩踏み込んでみよう
7. おわりに
17. 地方の財政①歳入 サイドストーリー
18. 地方の財政②歳出 サイドストーリー

とある租税教育用教材の内容

■ねらい

生徒に「なぜ納税が必要なのか」を考えさせるためのヒントとして、福澤諭吉が著書「学問のすすめ」の中で、欧米の租税思想を紹介し、「税は約束」と説いていることを説明する。

2. なぜ、税を納めなければならないのだろう？①-2

～税にまつわるエピソード～ 2つのエピソードを参考に考えてみよう。

②【福澤諭吉と税】

1872年に福澤諭吉が発した『学問のすすめ』の中に、税金とは国民と国との約束であると述べられています。

『学問のすすめ』より

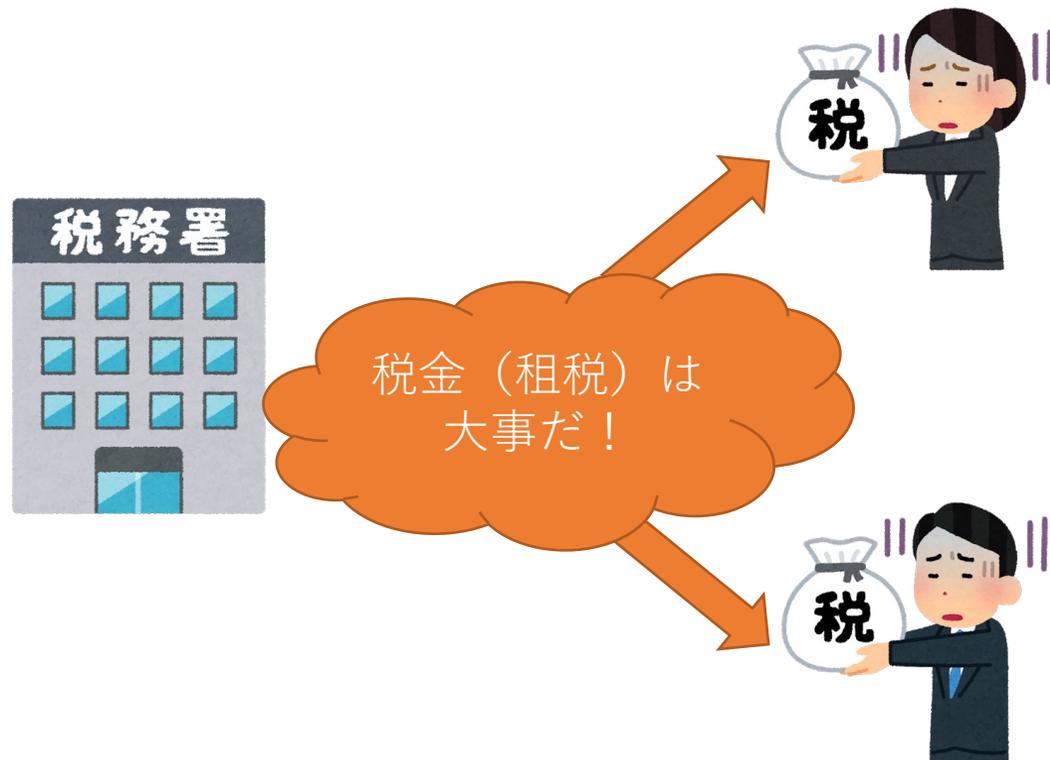
「政府は法令を設けて悪人を罰し善人を保護す。これ即ち政府の商売なり。この商売をなすには莫大な費なれども、政府に米もなく金もなきゆえ、百姓町人より年貢運上を出して政府の勝手方を繕わんと、双方一致の上、相續を取極めたり。これ即ち政府と人民の約束なり。」



資料提供：福澤諭吉著『西洋事情』

なぜ税金について学ぶのか

ビフォー租税教育



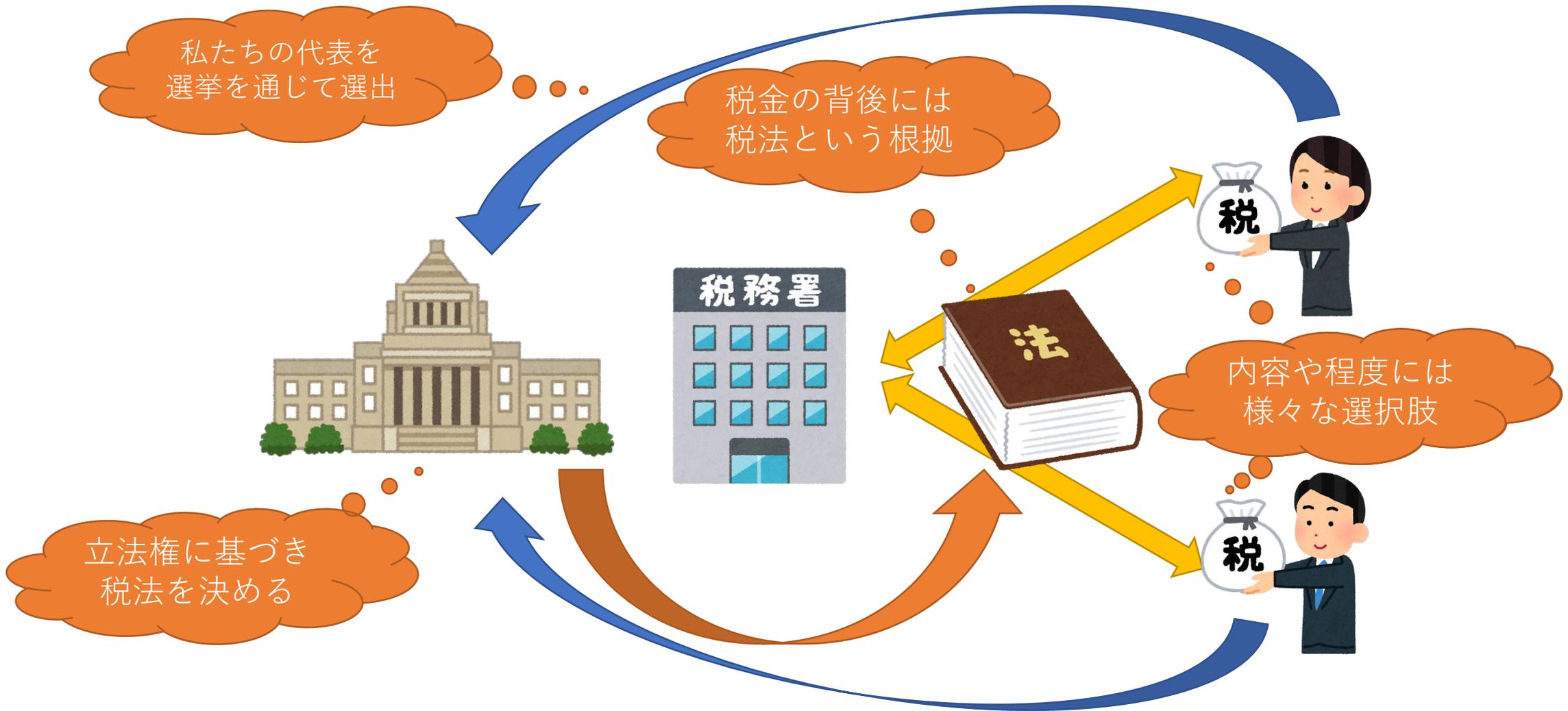
アフター租税教育



なぜ税金について学ぶのか (New)



なぜ税金について学ぶのか (New)



『高校生のための税金入門』



第1章 総論

- 1 税は文明の対価である
- 2 税金は嫌いでも税法は嫌いにならないでください
- 3 改正されるなんて、聞いてないよおー！

第2章 所得税

- 4 会社員は申告しない悪い人？
- 5 自営業者はお得ってホント？
- 6 ギャンブラーはつらいよ？
- 7 タダであげても課税されるの？

第3章 相続税・贈与税

- 8 死と相続
- 9 死とタックス・プランニング
- 10 そうだ、海外に住もう！——税金と住所

第4章 消費税

- 11 消費税を消費者が支払っていないって、ホント？
- 12 軽減税率の功罪

第5章 地方税

- 13 住んでいる地域によって税金が違う？
- 14 納税先を自由に決められるってホント？

第6章 国際課税

- 15 タックス・ヘイブンって天国みたいにいいところ？
- 16 税金の問題はグローバル！

終章

- 17 これからの税金の話をしよう

『高校生のための税金入門』の狙い



税は文明の対価である

1. 税金は理不尽なもの？

出発は素朴な疑問

2. 文明の対価としての税金

必要な理由を提示

3. 民主主義と税金

税法理論への接続

税金は嫌いでも税法は嫌いにならないでください

1. 税法は無駄だらけ？

出発は素朴な疑問

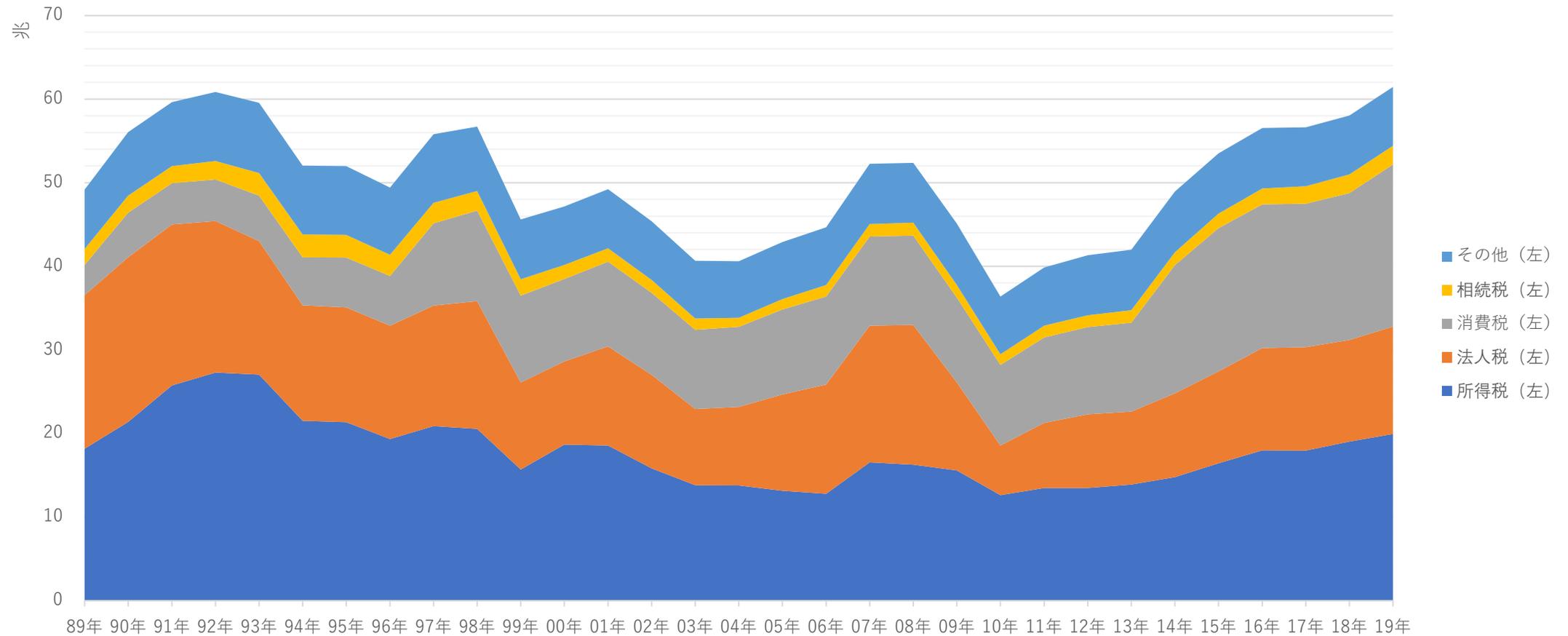
2. 所得税にとって大切なこと

必要な理由を提示

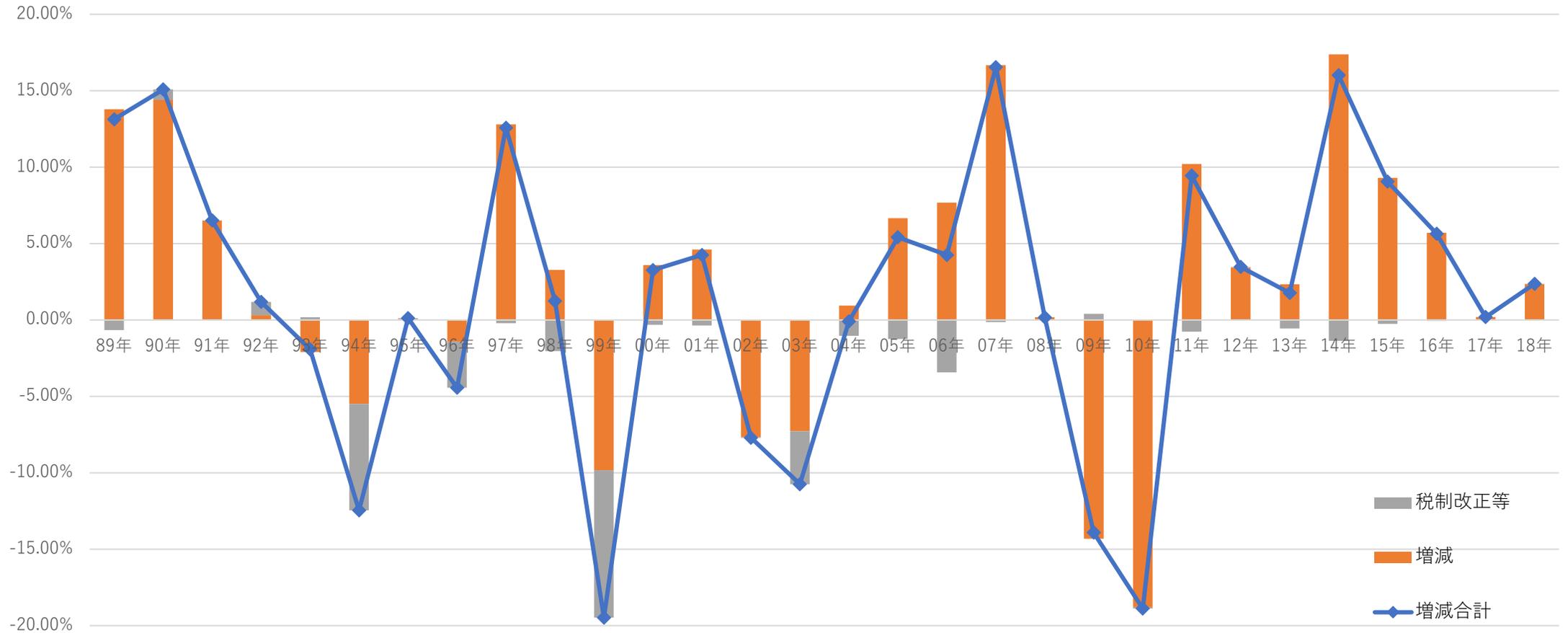
3. 税金の不可欠の要素である課税要件は法律で決める—課税要件法律主義

税法理論への接続

一般会計税収の推移

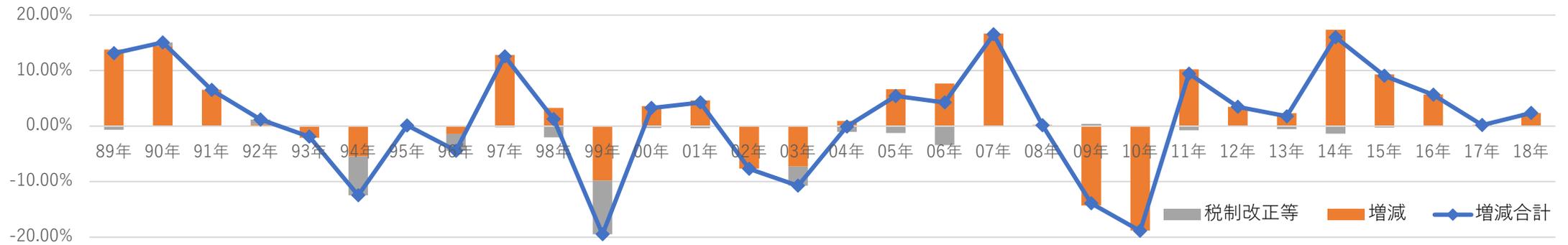


一般会計収入成長率

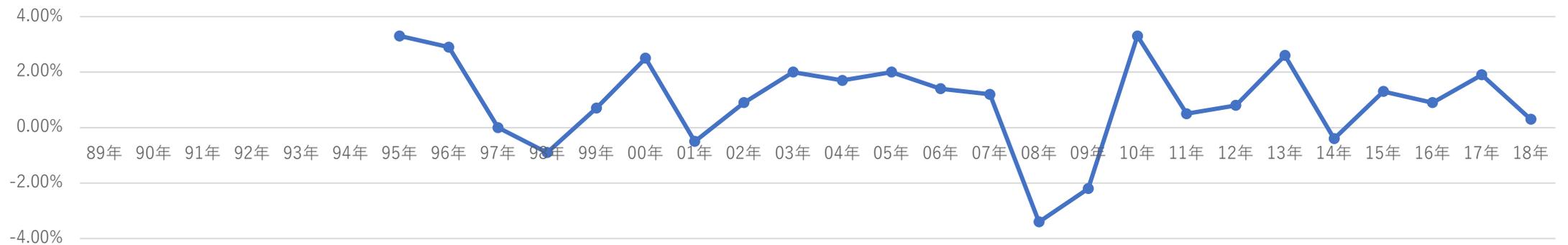


経済成長と税金

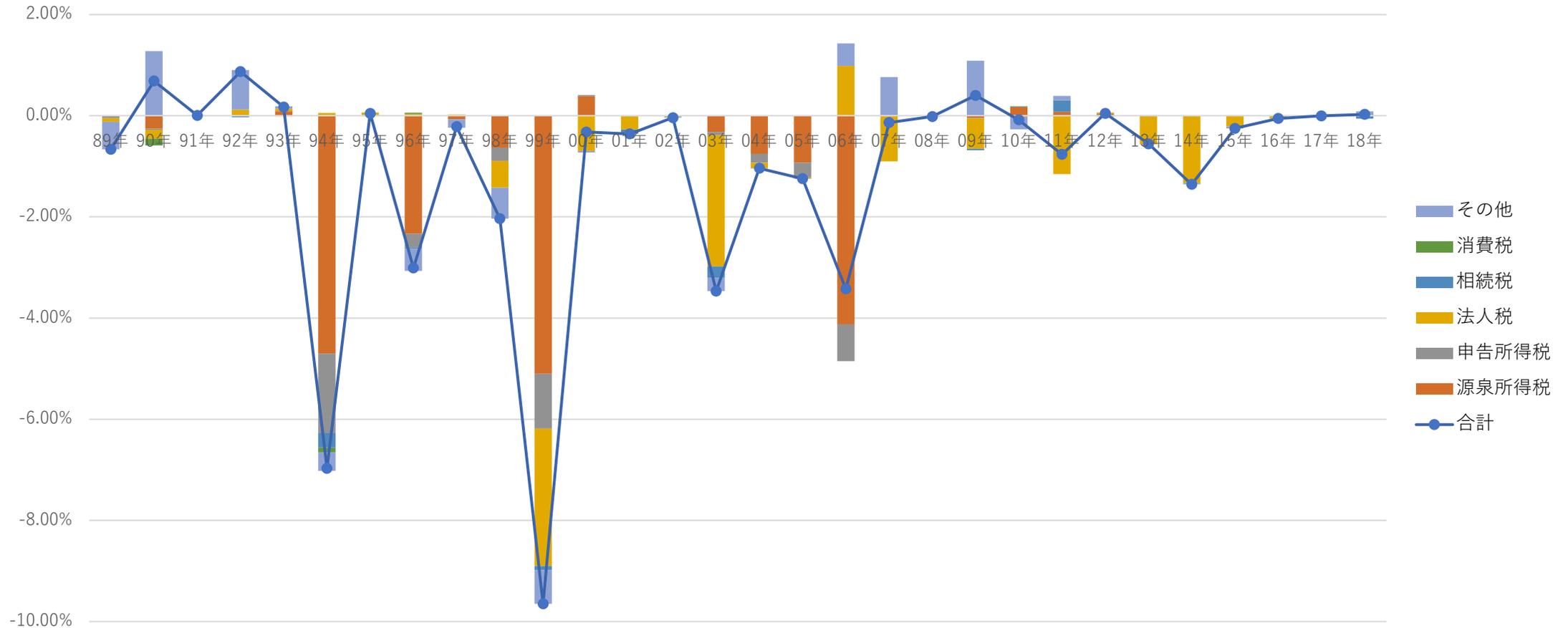
一般会計税収成長率



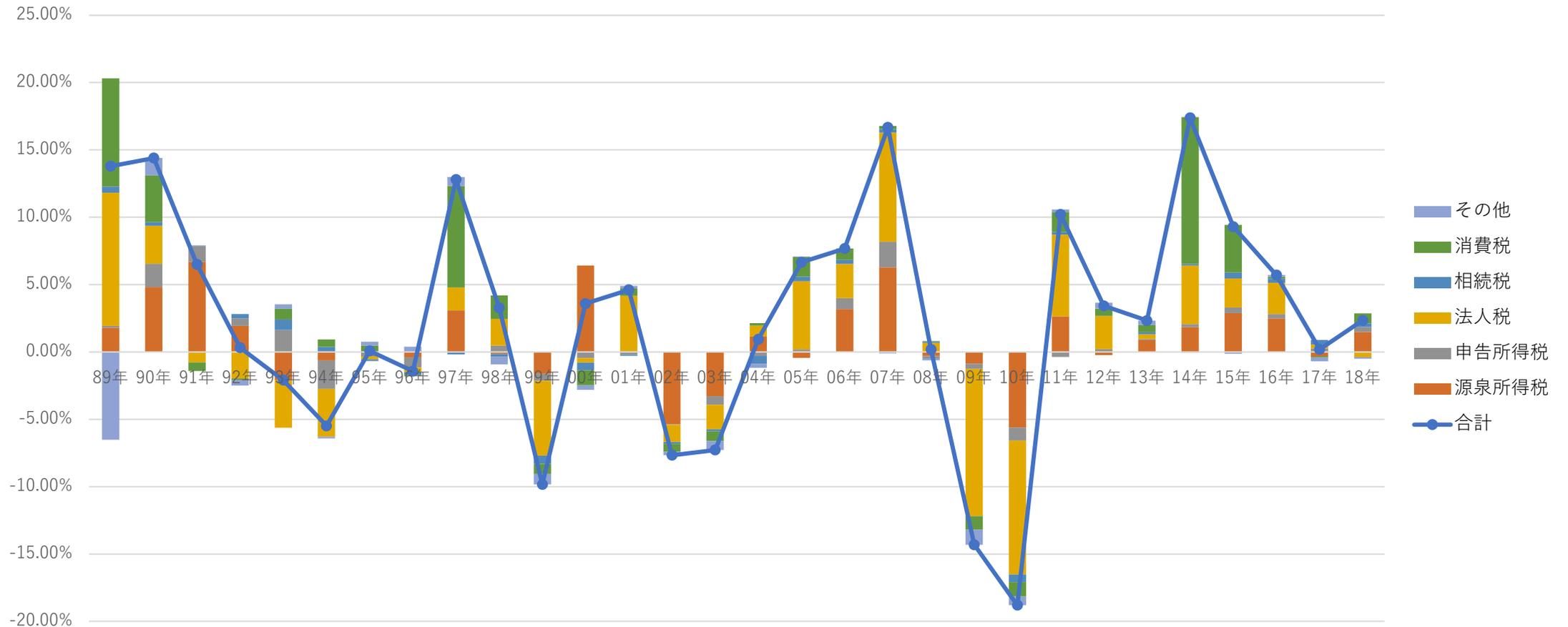
GDP成長率（実質）



(その年度の) 税制改正等の寄与度



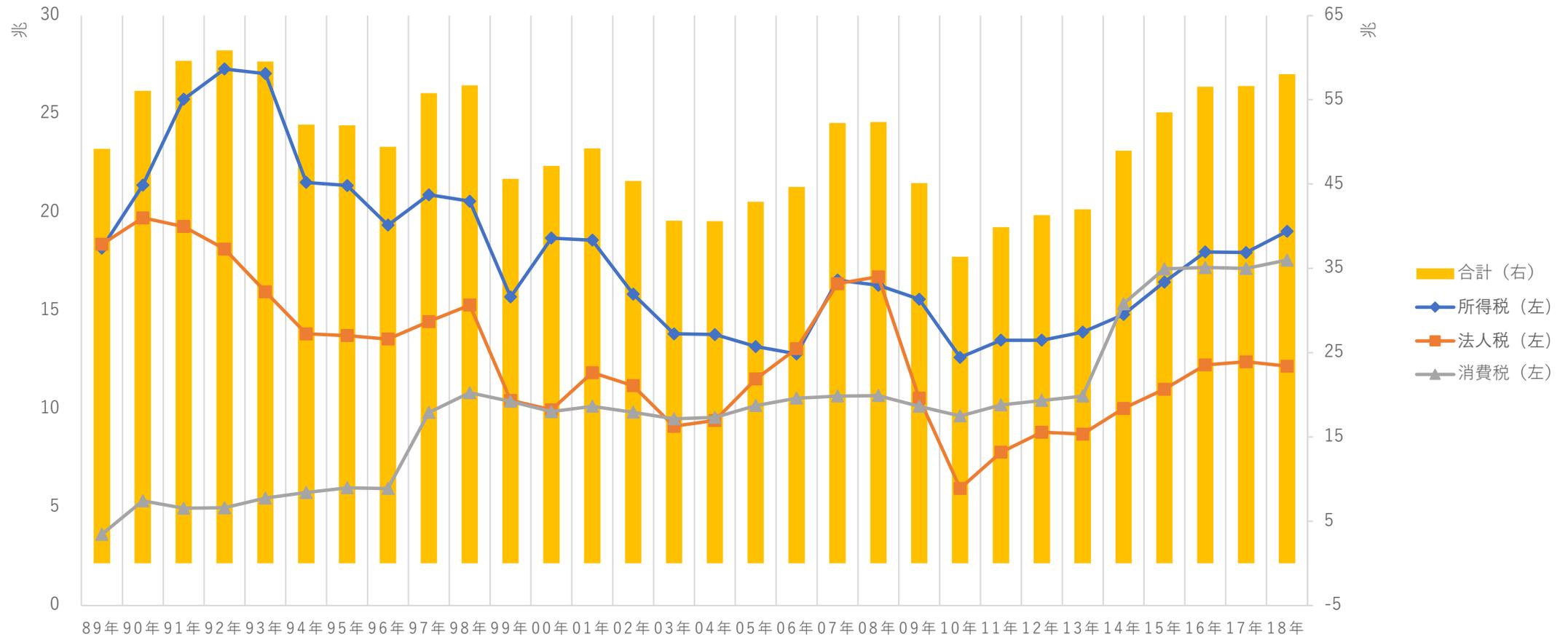
(その年度の) 税制改正等以外の寄与度



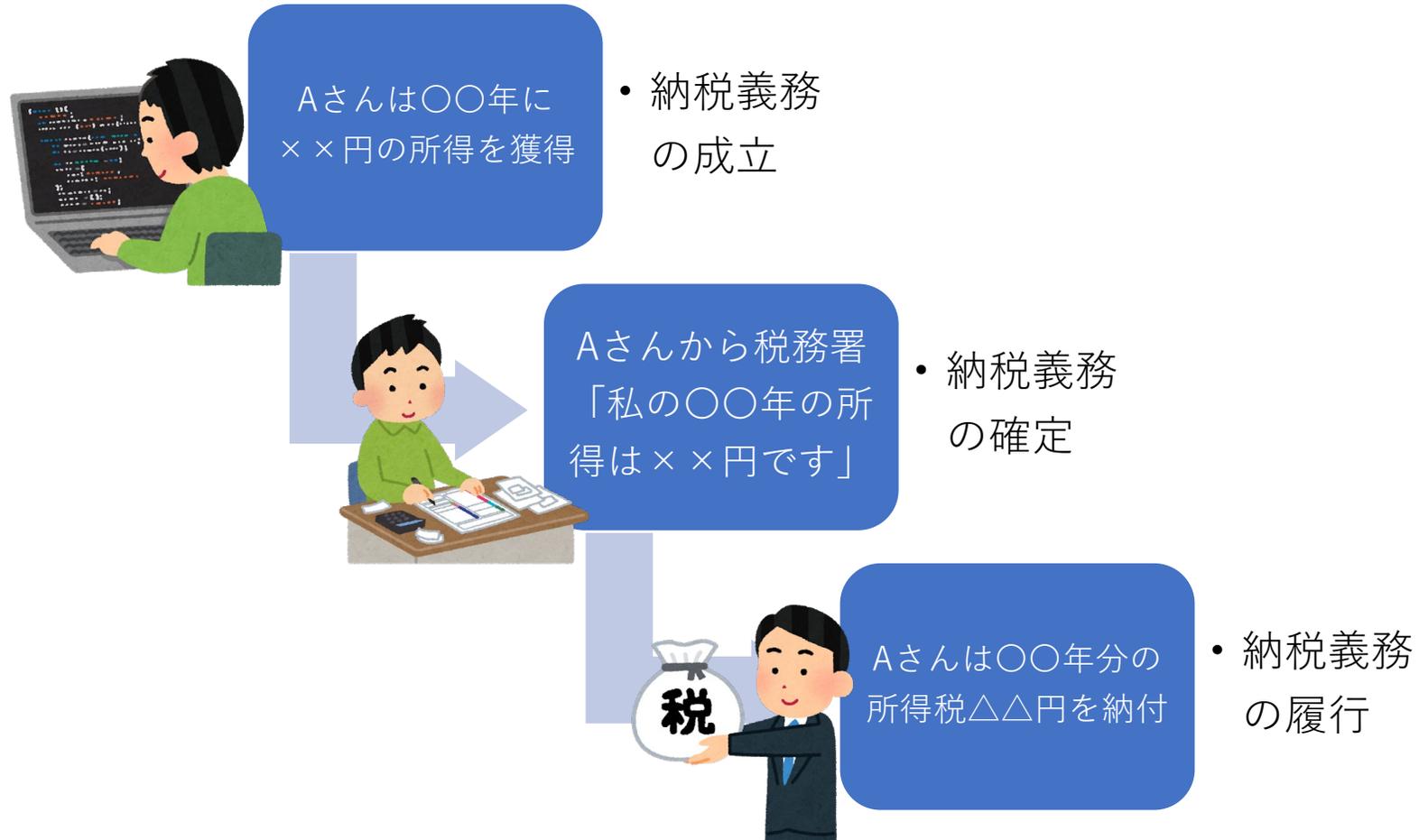
所得税減税の時代

年	減税の内容	減税規模
1994年	1年間だけ税額の20パーセント (上限200万円)	5.5兆円
1995年	1年間だけ税額の15パーセント (上限5万円)、税率の引下げ、 控除の拡大	2兆円、3.5兆円 (制度的減税)
1996年	1年間だけ税額の15パーセント (上限5万円)	2兆円
1998年	1年間だけ3万8000円	4兆円
1999年	恒久的に税額の20パーセント (上限25万円)、税率の引下げ、 控除の拡大	3.6億円 (*)

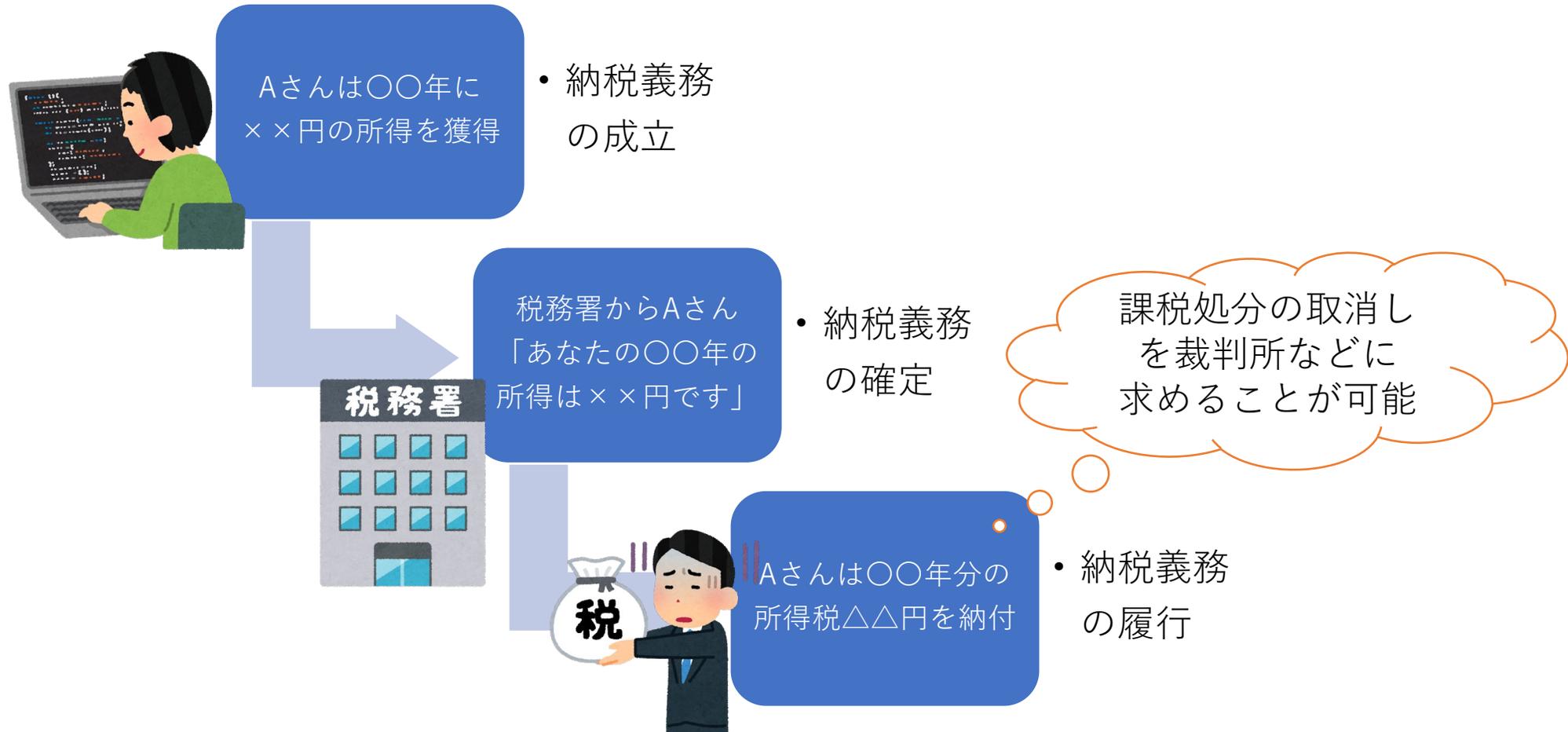
一般会計税収の推移 (2)



納税義務の成立・確定・履行

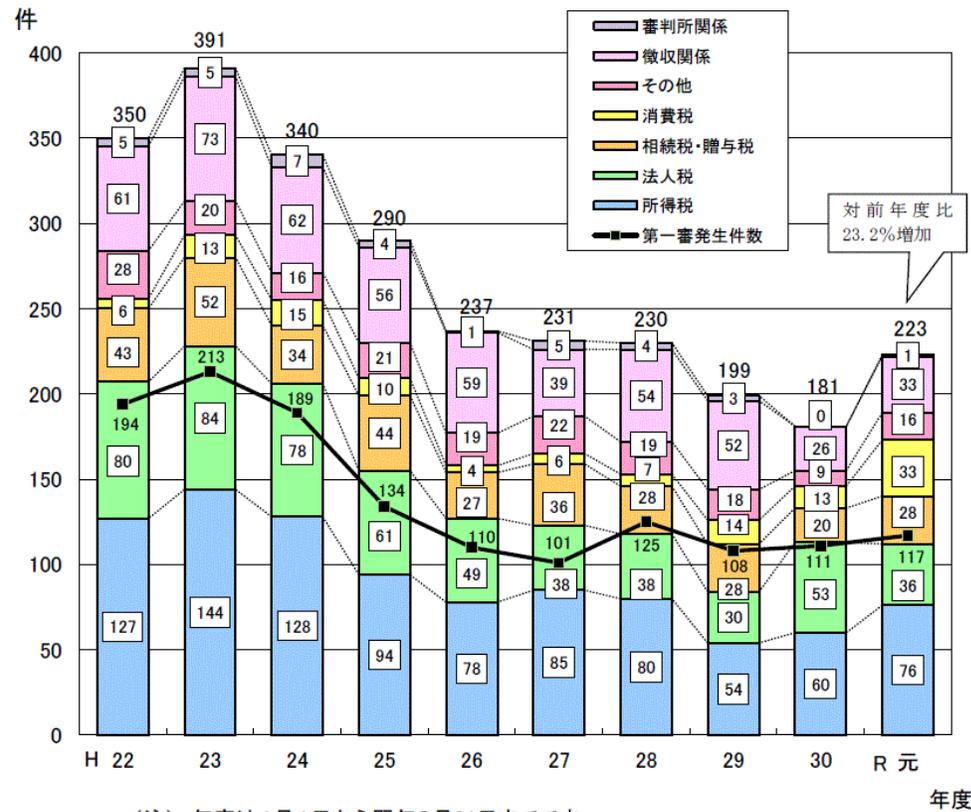


納税義務の成立・確定・履行 (2)

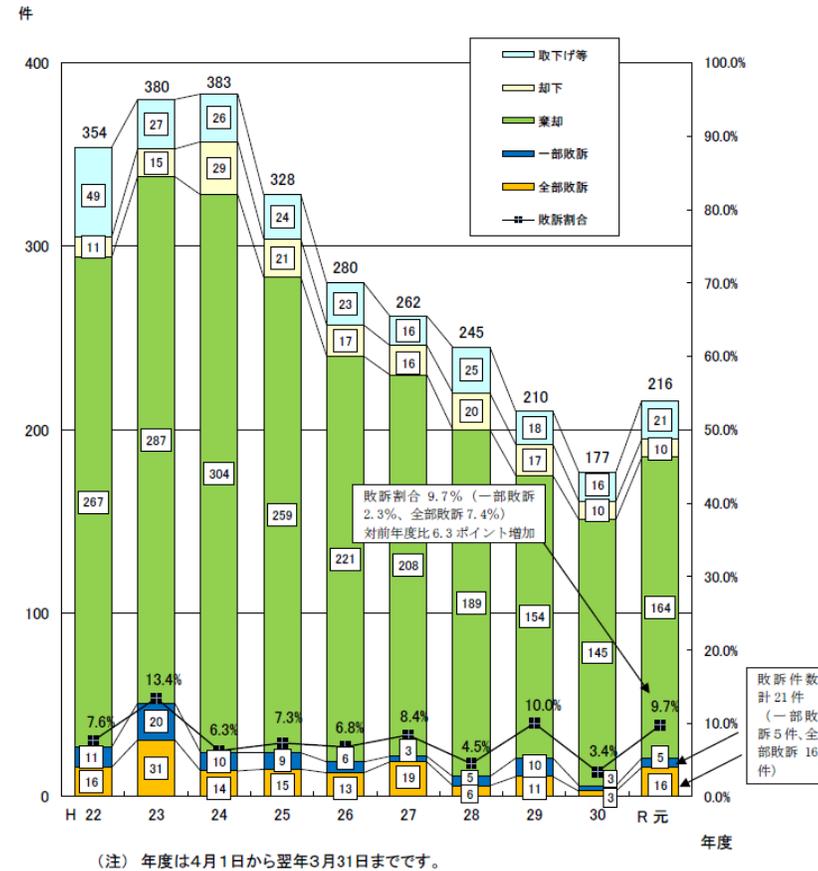


税務訴訟の状況

訴訟の発生状況

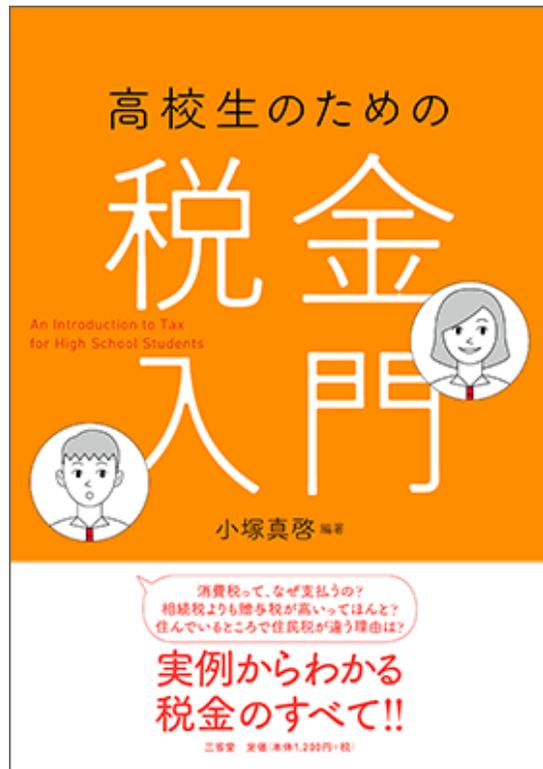


訴訟の終結状況



税法学へのいざない

『高校生のための税金入門』



オープンチャット税法学

